

(仮称)本厚木駅周辺における歩いて楽しいまちづくりの
推進に向けた提言（イメージ）



厚木市本厚木駅周辺まちづくり推進会議

令和〇年〇月

1 はじめに

本厚木駅周辺は、かつて相模川に沿って宿場町や生産物の交易の場が形成され、人や物が行き交う「小江戸」として、大きなにぎわいを有していた。

時代が昭和に移ると、小田原急行電鉄（現 小田急小田原線）が開通し、本厚木駅が誕生した。これにより、本厚木駅周辺を始めた市全域の現代化は加速し、昭和 30 年の市政誕生以降、土地区画整理事業や市街地再開発事業などが盛んに行われた。平成 24 年には中心市街地の全体構想が策定され、「歩いて楽しいまち」を目指して、まちづくりが行われている。

こうした先人の弛まぬ努力で、現在の街並みが形成され、我々は現在、買い物や通勤通学、医療、娯楽など様々な私生活の場面において、“当たり前”のように利便性のある暮らしを享受している。

しかしながら、今から約 2 年前に、その日常はガラリと様子を変えた。新型コロナウイルス感染症の拡大である。我々は、この苦難を乗り越えるべく、外出自粛や時短営業、テレワークなどに一丸となって取り組んだ。その甲斐あって、感染の勢いは徐々に鎮まりつ

つあるが、我々の価値観やライフスタイルは変化し、街中はモノを消費する場からコトやトキを消費する場へと転換するニーズが高まっている。

国においても、まちなかを車中心から人中心にするウォークブルなまちづくりを推進しており、全国各地で持続可能な都市を目指して官民が一体となり、既存ストックである身近なオープンスペースの有効活用に取り組む自治体が増えている。

こうした状況から、本厚木駅周辺においても、まちを訪れる人、とりわけ歩行者にとって、快適で居心地が良く、日常的にもまち歩きをしたくなるような街並みを取り戻すことが求められていると言える。かつての「小江戸」を彷彿とさせるような、にぎわいを生み出し、新たな“当たり前”の生活（ニューノーマル）を築いていくために、次のとおり提言する。

2 提言

(1) 歩行者空間の持続的な質向上

単に座れる場所を増やすだけでは、使われる場所にはならない。街中を歩いている人の目線で、ベンチや照明、舗装などの質（クオリティ）を高め、使いたくなる、歩きたくなるような空間づくりを進められたい。

こうした空間は、時間とともに劣化や損傷が進み、使いやすさや街並みのイメージなどにも影響する。いつまでも使われ続け、愛されるような空間となるように、メンテナンスのしやすさや維持管理の仕組みと一体的に検討を進められたい。

(2) 住みやすく・温かみのあるまちなか居住の推進

駅周辺ではマンション開発が増加しているが、マンションの乱立は、日照や通風を遮るなど、住環境を悪化させる恐れがある。

また、地上に日の光が入りにくくなると、駅周辺に暗い街というイメージが定着してしまいかねない。地区計画等により高さや容積

率を適正にコントロールし、厚木らしいまちなか居住を推進されたい。

(3)交通動線の最適化と道路空間の利活用

道路拡幅が困難で、自転車レーンが確保できず、車道に自転車マークが設置されているだけの道路がある。歩行者と自転車との接触を避けるために、無理やり車道に自転車を追い出すだけでは、交通事故をなくすことはできない。歩行者中心の街を目指して、交通規制の見直しなどとあわせて、歩行者、自転車、自動車ごとに、交通動線の棲み分けを行い、道路の役割にメリハリを持たされたい。

また、新型コロナウイルス感染症を経験し、閉塞感のない屋外での活動ニーズが高まっていることを踏まえ、通行以外の歩行者の滞在や交流が可能となる道路空間の利活用を推進されたい。

(4)市街地再開発事業への期待

北口側の駅前では、市街地再開発事業の実施を目指して、地権者による準備組合が結成されたところである。街中全体のにぎわい創出や市全体の人口推移を大きく左右する重要な開発であるため、準

備組合に対しては商業的土地利用を中心とした開発となるよう協議されたい。

また、対象エリアには、土地や建物の権利者以外にテナントとして、営業をしている者もいるため、準備組合に対してはこうした関係者への情報提供に努めるよう指導されたい。

(5)厚木中央公園の可能性

駅周辺で歩いて楽しいまちを築いていく上で、厚木中央公園は重要な資源の一つである。人が集まりたくなるような魅力的な空間を設えるだけでなく、民間事業者等が有する柔軟性や創造力を活かした多様な利活用を促進し、日常的なにぎわいで溢れる空間とされたい。

(6)路線バスの利便性向上

ベビーカーや車いすでは、路線バスに乗りにくく、自家用車で駅周辺を訪れてしまう人が多い。誰もが駅周辺で買い物や飲食を楽しめるように、路線バスに乗りやすい環境を実現されたい。

(7)自然資源の活用

大山の雄大な景色や相模川や都市公園などの自然資源は、駅周辺にいながらにして、自然を目で見て、肌で感じて楽しむことができる貴重な存在である。それらの自然資源との関係性にも留意して、まちづくりに取り組まれない。

3 結びに

未来は、誰にも予測することはできない。しかし、この先も新型コロナウイルス感染症のように、まちづくりの考え方を大きく変える出来事は起こり得るであろう。我々は、提言に当たって、予測困難ではあっても、これからも本厚木駅周辺はもとより厚木市全体がさらなる発展を遂げるため、できうる限り未来を想像しながら議論を積み重ねてきた。

この提言書が、予測困難な時代においても、厚木を愛し、ひたむきに街の発展に挑み続ける市民や行政が一丸となって取り組むまちづくりの一助となることを願う。

また、我々もこの提言に満足することなく、それぞれの立場を最大限に活かして、官民連携の旗振り役として、まちづくりや市民活動をリードする所存である。

厚木市本厚木駅周辺まちづくり推進会議

委員一同

(参考) 厚木市本厚木駅周辺まちづくり推進会議について

○委員一覧

No.	区分	所属及び役職	氏名	専門分野
1	委員長	東海大学工学部土木工学科教授	かじた よしたか 梶田 佳孝	都市計画
2	職務 代理者	中心市街地大規模小売店舗・商店会ネットワーク連絡協議会会長 ((一社) 厚木市商店会連合会会長)	さいとう ひろし 齊藤 裕	商工業
3	委員	厚木北地区自治会連絡協議会 (西仲自治会会長)	みき ともゆき 三木 智之	自治
4	委員	厚木南地区自治会連絡協議会 (旭町4丁目自治会会長)	さくがわ しげる 作川 茂	自治
5	委員	厚木市まちなか活性化プロジェクト会長 (厚木 なかちょう大通り商店街振興組合代表理事)	むかむら けんぞう 六ヶ村 健三	商工業
6	委員	厚木商工会議所青年部会長	なかの のぶひろ 中野 信博	商工業
7	委員	小田急電鉄(株)まちづくり事業本部 エリア事業創造部課長	にしむら やすお 西村 靖生	交通・ まちづくり
8	委員	神奈川中央交通(株)運輸計画部課長	さとう しょうた 佐藤 勝太	交通
9	委員	東京工芸大学工学部建築学科教授	やつお ひろし 八尾 廣	建築
10	委員	公募市民	いまい つかさ 今井 つかさ	
11	委員	公募市民	ひらの たかひろ 平野 孝裕	
12	委員	公募市民	ひろた ゆみ 広田 由美	

【任期】 令和3年8月16日から令和4年7月31日まで

○会議の開催状況

第1回 9月2日(木)【書面会議】
〔目的〕 附属機関の目的と新たな計画が目指すものの共有
(1) 委員長の選出について
(2) 会議等の公開に関する要綱等について
(3) (仮称)本厚木駅周辺歩いて楽しいまちづくり推進計画策定方針について
(4) 計画の策定イメージについて
(5) 推進会議の成果について
第2回 11月8日(月)【対面】
〔目的〕 まちのポテンシャル、目指すまちの姿の審議
(1) まちのポテンシャルについて
(2) 目指すまちの姿について
第3回 12月24日(金)【対面】
〔目的〕 目指すまちの姿、施策等の審議
(1) 目指すまちの姿について
(2) 施策について
(3) 提言書のイメージについて
第4回 対面 ○月○日(○)【○○】
〔目的〕
第5回 対面 ○月○日(○)【○○】
〔目的〕